

水稲有機栽培による米の高付加価値化支援

県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

笠間市では、令和6年度にオーガニックビレッジ宣言を実施し、学校給食の有機米使用率100%を目指しています。そこで、当センターでは、管内の水稲有機栽培実証農家を対象に、水稲有機栽培の安定生産を目指し、深水代かき技術や米ぬか表層散布による抑草効果の実証試験を実施しました。その結果、これまでの手取り除草に比べて、作業時間は8時間/10a削減され、収量は目標を超える400kg/10aを達成しました。

水稲有機栽培の省力技術の実証

深水代かきによるトロトロ層形成、移植後米ぬか散布による抑草効果を検証するために実証圃を設置した結果、水稲の生育期間中、省力的に雑草を抑えることができました。従来の手取り除草に比べて除草にかかる作業時間を8時間/10a削減できました。次年度は、有機転換2、3年目となる経営体で引き続き抑草効果を検証する予定です。



図1 深水代かきの実演の様子
(水位5～10cm、泡が立つように速度を落とす)

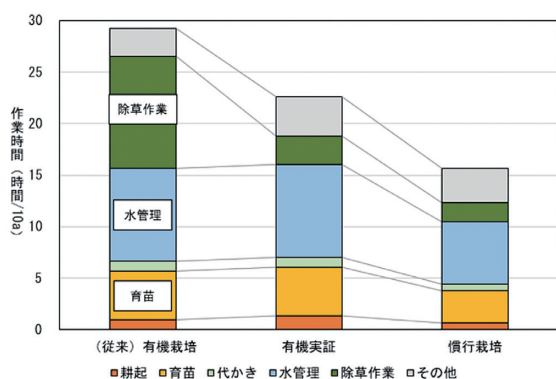


図2 労働時間の比較

水稲有機栽培の経済効果の検証

実証圃の平均実収は400kg/10aとなり、目標の360kg/10a以上を確保できました。労働時間は、慣行栽培に比べて5～7時間/10a増加するものの、上記の速度を落とした代かき等の省力的な抑草により、労働時間が短縮し、慣行栽培より所得を1万円/10a増加することができました。

水稲有機栽培取り組み面積の拡大

本取組により、上記結果に基づく作業マニュアルを作成しました。実証農家は有機栽培面積の規模拡大を予定しており、笠間市の有機米栽培面積は、6.6ha(令和6年度)から令和7年度は8.3haに増加する見込みとなりました。次年度も引き続き実証圃を設置し、栽培体系の確立と、講習会等での技術の普及を目指します。



図3 作業マニュアル(暫定版)のイメージ